

主催



「Responsible Gaming研究会」発足記念 2018・第1回RCPGセミナー開催

新法成立後の
ギャンブル依存問題
対策のために

の全想像

ギヤンブル依存問題

全ての関係者に
絶対知つてほしい

ご担当者様
必見!

2018年

2月28日(水)

14:00-17:30

13:30受付開始

第一部 14:00-15:30 休憩20分

第二部 15:50-17:30

会場

TKPガーデンシティ
PREMIUM神保町

東京都 千代田区 神田錦町3-22 テラススクエア3F

定員

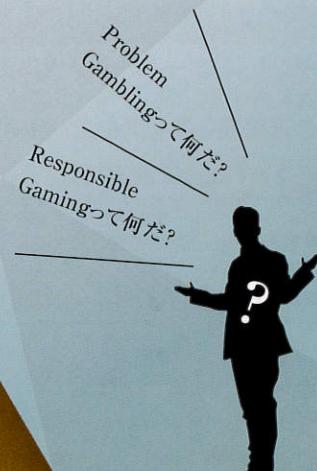
200名

参加費

5,000円

(当日受付にてお支払い)

まだ、世間で知られていない
「本当」のギャンブル依存問題の
正しい知識がわかる!



プログラム

第1部

第一の鍵

重要な鍵がここにある。

「Problem Gamblingの理解から始める」

世界が「依存症」ではなく「Problem Gambling」を重視する理由
「ギャンブル依存問題を正しく知る」、「ギャンブル等依存症」という政治用語

第二の鍵

「依存症の法律がやってくる ～ギャンブル依存症対策基本法成立後に起きること～」

事業者・自治体・援助職者にとって?今何をすべきか?どんな準備が必要か?

第三の鍵

「何だ! Responsible Gamingって?」

Responsible Gamingこそが世界のゲーミング産業の中核にあり、
日本が学ぶべきこと。ギャンブル等依存問題の本質とResponsible Gaming

第2部

パネルディスカッション

「ギャンブル依存問題をどう受け止めるべきか?何をすべきか?」

【司会】西村直之 RCPG代表理事

【パネラー】平安良雄(横浜市立大学大学院医学研究科 精神医学部門 主任教授、医学博士)

高橋洋平(高橋洋平法律事務所、弁護士)

稻村厚(認定NPO法人ワンデーポート理事長、司法書士)

※その他のパネラーの方々(行政担当者、事業者、医師等)につきましては現在調整中ですので、確定後HPにてお知らせ致します。



会場

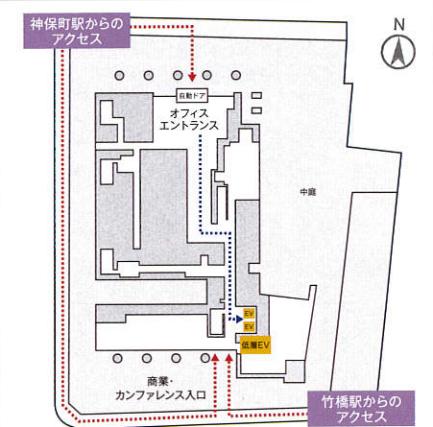
TKPガーデンシティ PREMIUM神保町

東京都 千代田区 神田錦町3-22 テラススクエア3F

3F プレミアムボールルーム 定員: 200名

<アクセス>

- 東京メトロ半蔵門線「神保町駅」A9出口より徒歩2分
- 都営新宿線「神保町駅」
- A9出口まで徒歩5分、A9出口より徒歩2分
- 東京メトロ東西線「竹橋駅」3b出口より徒歩5分



2018・第1回RCPGセミナーの申し込み

ホームページから簡単申し込み!

RCPG



参加には事前申し込みが必要になります。

申し込み方法

RCPGのホームページ内にある
セミナー申込専用ページより、
必要事項をご記入の上、送信下さい。

http://www.rcpg.or.jp

FAXからのお申込みの場合は、右側の申込書に必要事項をおひとり様1枚づつご記入の上、送信下さい。

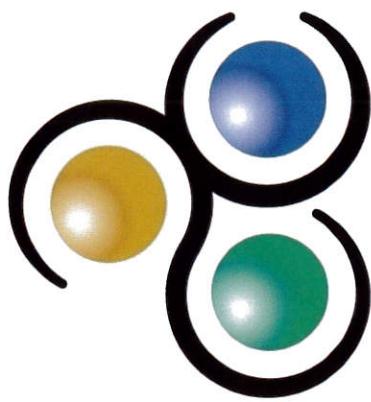
参加費: **5,000円** (当日受付にてお支払い)



一般社団法人
RCPG
Resourceful Center of Problem Gambling

TEL.03-6262-7686 FAX.03-6262-7685
〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目4番1号
日本橋一丁目三井ビルディング(コロド日本橋)19階

◆申込書 (おひとり様1枚づつご記入の上、お申込み下さい)	FAX:03-6262-7685
フリガナ 貴社名・貴団体名:	お電話番号:
所属・役職:	メールアドレス:
フリガナ お申込者名:	備考:
住所:〒	



一般社団法人 RCPG

Resourceful Center of Problem Gambling

代表挨拶



代表理事 西村 直之
Naoyuki Nishimura

琉球大学医学部卒。琉球大学医学部大学院修了（医学博士）。国立肥前病院所（アルコール・薬物依存病棟）、（医）卯の会あらかきクリニック院長など経て、（医）卯の会 新垣病院 医師。2006年リカリーサポート・ネットワークを設立し、代表理事を務める。薬物依存回復支援施設ダルク、（医）ギャンブル依存症からの脱出」SE研究會 他多数著書、「ギャンブル依存症に対する見直し新規概念の開拓」国際会議発表（元久里医療センター精神科医長 岩田正樹）著書「ギャンブル依存症からの脱出」SE研究會 他多数著書、「日本社会回復支援法人本部連絡事務局会議」（第1回）出席（「あたまがよくなる！ 国連」学研プラス 他多数著書）

団体理事 Director

代表理事



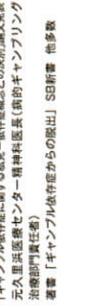
西村 直之 精神科医
Naoyuki Nishimura
認定NPO法人
リカリーサポート・ネットワーク
代表理事



新垣 元 精神科医
Hajime Arai
医療法人、卯の会 理事長
代表理事



河本 泰信 精神科医
Yasunobu Kominami
医療法人社団
正心会 よしの会病院 副院長
正心会



篠原 菊紀 脳科学者
Kiyoko Kuroki
関西実践理科大学 教授
東洋大学大学院脳科学研究会准教授
日本精神医学会回復支援研究会准教授



麻生 利勝弁護士
Toshiyuki Asai
府生・東京法律事務所 代表弁護士/
慶應義塾大学 法学専門
東洋大学大学院法医学専攻科准教授
薦選免許や法科大学非常勤講師(司法制度論・環境論)
大妻文化ビデオ制作部監修教員(法律問題・基礎問題)
一般財團法人、日本済生会レジーナ・安全・健康協会DAN運営委員
著書「あたまがよくなる！」著者 リサ・ラス、他多数
著書「ギャンブル依存症からの脱出」SE研究會 他多数

名 称 一般社団法人RCPG(Resourceful Center of Problem Gambling)

<http://www.rcpg.or.jp>

TEL.03-6262-7686 TEL.03-6262-7865

〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目4番1号
日本橋一丁目三井ビルディング（コレド日本橋）19階

アクセス

東京メトロ銀座線・東西線・都営地下鉄浅草線「日本橋」駅直結
東京メトロ半蔵門線・銀座線「三越前」駅より徒歩3分
JR各線「東京」駅より徒歩6分
メトロリンク日本橋駅もしくは「地下鉄日本橋駅」下車徒歩1分

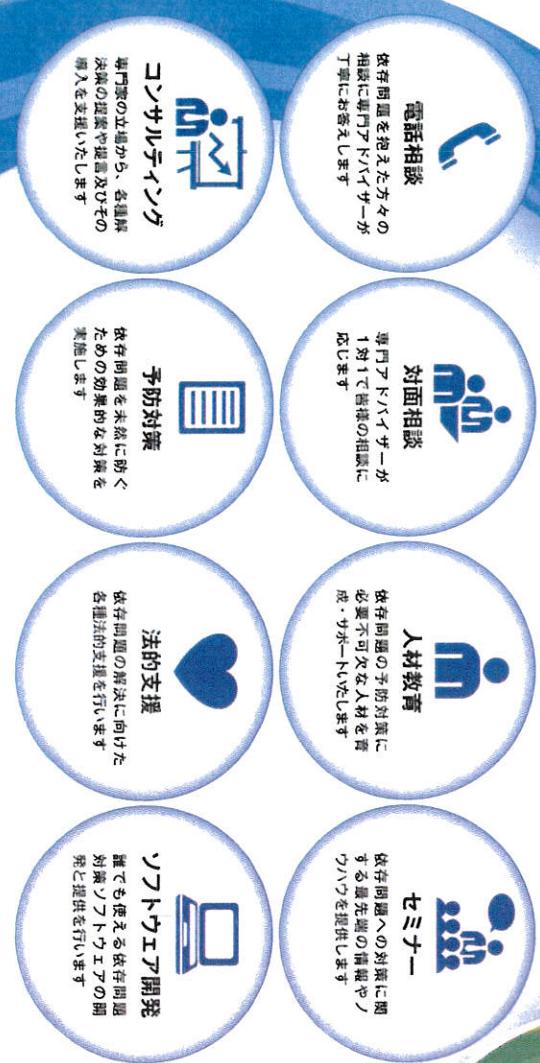
■目黒、羽田、千葉、常磐道、東北道方面よりくつろぎ園方面より江戸橋へ出口
■新宿、池袋、中央道、東名高速、東京方面より東京駅へ出口

私たちは、ギャンブル等依存問題に対して医療・福祉・法律等を包括した取り組みを行い、総合的かつ個別的な対策や予防に取り組む創造的な提案、人材育成等を通じて一人ひとりを尊重した心豊かで福祉的な社会の実現に貢献します。

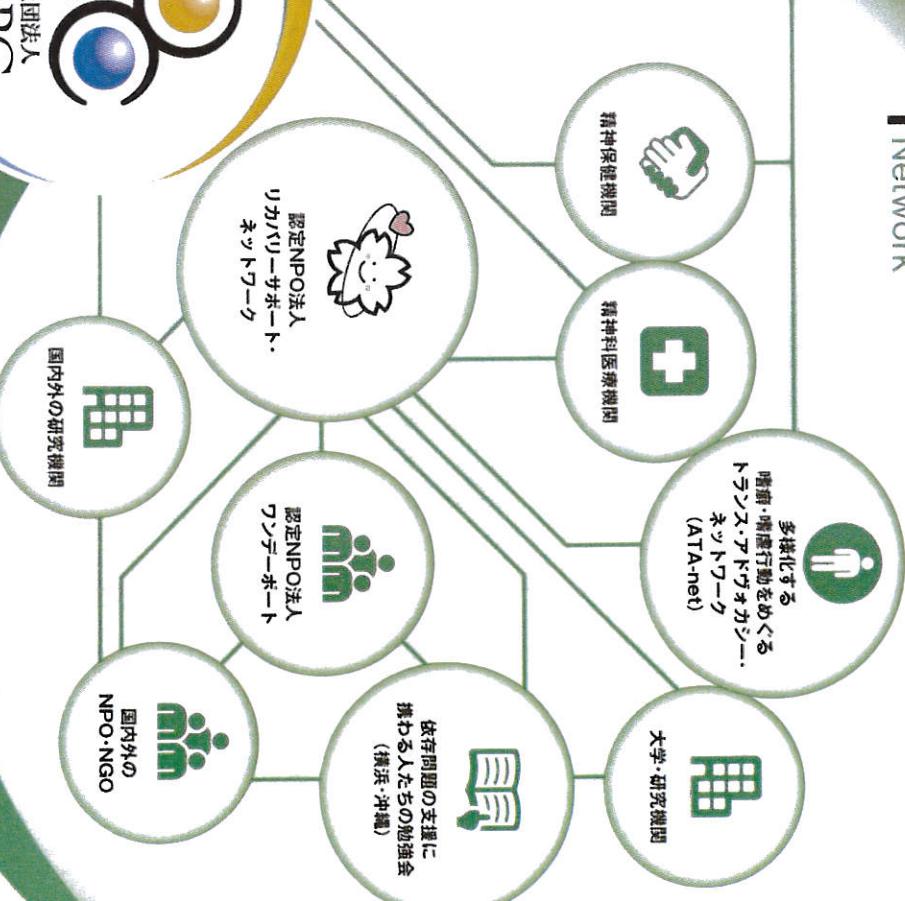
活動方針 Activity Policy

- ギャンブル等依存問題に関する広報及び啓発
- 依存問題を抱える方々への各種支援プログラムの開発と提供
- キャンブル等依存問題に対する多面的な対策の提言および実施
- ギャンブル等依存問題の解決を支援するための人材育成と提供
- 行政、学術研究機関、国内における関連他団体との連携及び情報交換
- 海外のギャンブル等依存問題対策機関との連携

RCPGの事業概要 Business summary



RCPGの提携・連携・協力などのネットワーク Network



健全な娛樂と安心な社会のために。

西村 直之 (にしむら なおゆき) プロフィール

平成2 (1990) 年	琉球大学医学部卒
平成7 (1995) 年	琉球大学大学院医学研究科修了 (精神神経薬理) 日本精神神經学会認定専門医、医学博士
平成6 (1994) 年～	依存問題の治療に取り組む 国立肥前療養所(現：肥前精神医療センター)にて国立初の開放型の 薬物依存入院治療プログラム(DRP)の導入、精神保健福祉センター における認知修正とセルフケアに焦点を当てた薬物依存の家族教室プロ グラムを開発・実施
平成10 (1998) 年～ 平成14 (2002) 年	薬物依存回復支援施設ダルクの活動を支援し、複数のダルク(※1)の設立を援助。現在、沖縄ダルク理事、板橋ダルク顧問を務める 薬物依存当事者と連携した教育機関での薬物予防教育に取り組んだ。 また、当事者活動のネットワークを支援するため九州エリアでは初の アディクション・フォーラム(※2)の開催運営を行った 厚生労働省班研究の研究員(薬物依存)
平成12 (2000) 年	この年に開設したギャンブルの問題を抱える人たちの回復支援施設NPO法人ワンデーポート(※3)の活動を支援し、平成26 (2016) 年より理事に就任
平成18 (2006) 年	ばっかんこ依存問題電話相談機関リカバリーサポート・ネットワーク(※4)を設立し代表理事として、電話による早期介入に取組む 厚生労働省班研究研究員(ギャンブル依存)(※5)
平成19 (2007) 年～ 平成26 (2014) 年	公益財団法人日工組社会安全財団パチソコ依存問題研究会研究員(※6) として、日本におけるパチソコ・パチスロ遊技障害の調査尺度、有障 害率を調査し発表
平成28 (2016) 年～	ATAnet(多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネット ワークの構築)プロジェクト(※7)のギャンブリング領域を担当。 龍谷大学矯正・保護研究センター研究員として依存問題の社会内処遇 と回復支援の在り方を探している
平成29 (2017) 年～	遊技業界の従業員教育にも取組み、パチソコホール従業員が依存問題 対策に当たれるよう安心パチソコ・パチスロアドバイザーの養成プロ グラムを遊技業界と作成し、研修を展開している また、競馬業界に対して講義を行い、従業員教育の支援を行った
平成29 (2017) 年6月	第5回特定複合観光施設区域整備推進会議(内閣府、※8)にて講師を 務めた。IR整備に向けた国の議論において、自民党、公明党で講義
平成29 (2017) 年7月	ギャンブル等依存問題対策を行う一般社団法人RCPG(※9)を設立し、 代表理事に就任
平成29 (2017) 年10月	ラスベガスにて開催されたTHE 18TH NCRG(※10) CONFERENCE ON GAMBLING AND ADDICTIONに日本から参加し、海外の研究者らと意見 交換を行う
平成30 (2018) 年2月 (予定)	カナダ／バンクーバーでBCLC(※11)が主催するNew Horizons in Responsible Gambling Conferenceに参加予定

- ※1 ダルク
覚醒剤、有機溶剤(シンナー等)、市販薬、その他薬物から解放されるためのプログラムを持つ民間の薬物依存症リハビリ施設。回復と社会復帰支援を目的としている。
(<http://darc-ic.com/>)
- ※2 アディクション・フォーラム
アディクション・フォーラムに問題のある人が入所生活をしながら、人生のやり直しをする施設。一人ひとりの背景を見て、様々な支援を行っている。
(<http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>)
- ※3 NPO法人ワンデーポート
ギャンブルに問題のある人が入所生活をしながら、人生のやり直しをする施設。一人ひとりの背景を見て、様々な支援を行っている。
(<http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>)
- ※4 リカバリーサポート・ネットワーク
パチソコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行うことを目的とする非営利の相談機関。問題でお悩みの方やそのご家族を対象に、無料で電話相談を実施。
(<http://tsn-sakura.jp/>)
- ※5 厚生労働省班研究 研究員(ギャンブル依存)
国民生活に深くかかわる保険、医療、福祉、労働分野の課題に対し、科学的根拠に基づいた行政政策を行うための研究活動。研究成果は安全・安心な国民生活の実現のために生かされる。
- ※6 公益財団法人日工組社会安全財団パチソコ依存問題研究会研究員
日工組社会安全研究財団は、昭和26年8月に発足して以来、「我が國の人々が犯罪と無縁でいられる安全で安心な社会を創るために事業を振興し、公共の安全と秩序の維持に寄与する」ことを目的として、広範な事業を行う。その中で、パチソコ依存問題を研究。
(<http://www.syaanken.or.jp/>)
- ※7 ATAnet
「のも、うつ、かう、そして「なぐる」”というアディクションに注目し、「禁錮、禁止・处罚」だけではない対応を目指す。やり直し、立ち直り、回復(リカバリー)、脱暴力、離脱を可能にするために、理念、制度、臨床、実践、手続きを開発していく。
(<https://atatenet.jp/index.html>)
- ※8 第5回IR整備推進会議
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ir_promotion/ir_kaiji/dai5/sinou.html
- ※9 一般社団法人RCPG
統合的な学術的知見に基づき、ギャンブル等依存問題に対する必要かつ適正な対策を行う団体。ギャンブル等依存問題への対策及び予防に関する創造的な提案と人材の育成を通じて、心豊かな社会の実現に貢献。
(<http://www.rcpg.or.jp/>)
- ※10 NCRG (National Center for Responsible Gaming)
ギャンブリング障害に対する実証研究とそれに対する支援活動を行う米国における唯一の民間機関
<http://www.ncrg.org/>
- ※11 BCCL(British Columbia Lottery Corporation)
オンラインギャンブリング事業(Lottery他)を展開するカナダ国営企業
<http://www.bclc.com/>

ホームページリニューアルのお知らせ



ギャンブル等依存問題における日本唯一の「ポータルサイト」としての機能を持ち、関連する情報をより分かりやすく多くの皆様にお伝えできるようレイアウトやデザインを全面的に改定しリニューアル致しました。

また、ギャンブル等依存問題における注目すべきニュースや国内外の専門家の知見や最新報告事例、各種セミナー・シンポジウムのご案内等などお送りするRCPGメールマガジンにおいても、この機会にぜひご登録下さいますようお願い申しあげます。

リニューアル後 トップページ

<http://www.rcpg.or.jp/>

リニューアル概要

- ◆ ギャンブル等依存問題に関する最新ニュースや、ニュースに対するRCPGのコメントを掲載
- ◆ 「Responsible Gaming」や「Problem Gambling」等の世界標準用語を詳細に解説
- ◆ ギャンブル等依存問題の関連用語をわかりやすく解説
- ◆ 関連法案や調査データ、電話相談に関するケーススタディを始めとするギャンブル依存問題に関する様々な情報をデータ・資料室に掲載
- ◆ ギャンブル依存問題に関する国内外の団体へのリンクを掲載

今後は、情報量を増やしていくと共に問題ギャンブリングやギャンブリング障害の治療やケア、研究等に必要な各種情報、論文の紹介、評価・診断ツール、オンライン事例、研究支援に関する情報等も掲載し、更なる充実を図ってまいります。

RCPGメールマガジンのご案内

① RCPGにアクセス

- 「一般社団法人RCPG」で検索
- <http://www.rcpg.or.jp>を入力
- 右 QRコードからアクセス



② メルマガ登録用のバナーをクリック



③ 必要事項を記入して送信ボタンをクリック

たった3ステップで登録完了です。

発行者：一般社団法人RCPG

配信日：不定期

内 容

- ギャンブル等依存問題に関する最新ニュース
- ギャンブル等依存問題に関する国内外の知見
- ギャンブル等依存問題に関するセミナーやシンポジウム等のご案内
- 見学会/各種勉強会等のご案内

【ご注意ください】

GmailやYahooなどのフリーアドレスで登録された場合、RCPGから配信されるメルマガが「迷惑メール」に入ってしまう場合がございます。

その際は「迷惑メール設定解除」をお願い致します。



一般社団法人
RCPG
Resourceful Center of Problem Gambling

第1弾

～ギャンブル依存問題用語を正しく理解しようシリーズ～

「Problem Gambling」って何だ？

西村直之（精神科医）

日本では「ギャンブル」という言葉が一般的に使われていますが、「gamble（ギャンブル）」という用語が持つ意味は国や文化、法律、宗教、民族などによってかなり異なっています。日本では「賭博」という訳語が当てられていますが、賭博は法律用語では犯罪になってしまいます。このような意味や認識のすれを無くし、「人が賭け事をする行為」について皆が議論できるように、

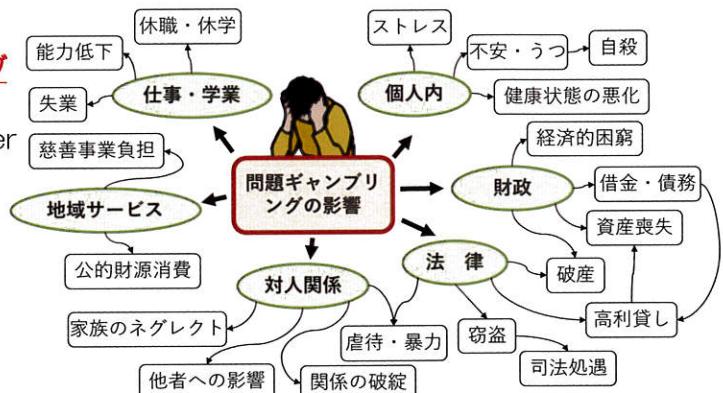
「人が何らの自分にとって価値があるものを失う危険を冒して偶然に賭ける行為」を総称して「gambling（ギャンブリング）」と呼称することが世界の標準となっています。

ギャンブリングは、違法か合法か、金額が多いか少ないかは関係ありません。公営競技やパチンコ・パチスロだけではなく、宝くじやゲームコンテンツ内のガチャ、お金をかけた遊びなどは、分類上すべてギャンブリングに入ります。これらのギャンブリングを商業活動にした企業や運営者を総称してギャンブリング産業やゲーミング産業と呼ばれています。

右の図のようにギャンブリングの習慣によって学業や仕事、家計、人間関係、心身の健康状態などに問題が生じている状態を、「Problem Gambling（プロブレム・ギャンブリング/問題ギャンブリング）」と呼びます。また、その状態にある人を、「Problem Gambler（プロブレム・ギャンブラー/問題ギャンラー）」と呼びます。

問題の程度は、一人一人の生活条件によってもかなり異なり（大金持ちの人は、たくさん負けが続いても金銭問題にはなりにくい等）、問題の程度とギャンブリングへのめり込みの程度が必ずしも一致するわけではありません。

Problem Gambling（問題ギャンブリング）の影響



Australia's Gambling Industries Report No.10 1999を西村直之が一部改変

Problem Gambling（問題ギャンブリング）は、あまり深刻な問題に至ってはいないもののギャンブリングによって生活への支障や苦痛が生じている程度の状態から、本人だけでなく周囲の人や、社会に悪影響を与えるギャンブリング行動全般までを指す幅の広い概念です。世界中でギャンブリングに関連する研究や対策がこの20年余りで急速に進み、「Problem Gambling（問題ギャンブリング）」の範疇はより広く捉えられるようになってきています。

2013年に医学的な診断基準であるDSM-5からアルコール・薬物の依存症（dependence）、ギャンブリングの“いわゆる依存症”レベルに相当する病的ギャンブリング(Pathological Gambling)がなくなり、ギャンブリングについてはGambling Disorder（ギャンブリング障害）という診断名が登場しました。

「Problem Gambling（問題ギャンブリング）」の状態にあるからといって、医学的な診断基準である「Gambling Disorder（ギャンブリング障害）」に該当するとは限りません。

ギャンブリング障害の中等度～重症レベルが、従来の病的ギャンブリングにほぼ相当します。問題ギャンブラーの中で中程度～重度ギャンブリング障害に相当する人たちは半数かそれ以下という諸外国の調査があります。日本の疫学調査（2017年発表）では、問題ギャンブラーの疑いのある人の推測値は70万人程度（パチンコ・パチスロのみにおける調査では、40万人程度）という結果が得られています。

問題ギャンブラーの多くは、問題を自己修正し折り合いの付く状態に自然に（または、何らかのきっかけで）収まっていくことがわかっています。しかし、一部の人たちは自己修正がうまくいかず、健康や生活に深刻な影響を生じながらも、ギャンブリングを継続する病的な状態となってしまう人たちもいます。重度のギャンブリング障害と呼ばれる人たちです。

問題ギャンブラーにならないような予防と問題ギャンブラーから重度のギャンブリング障害に移行しないように予防する対策が、諸外国ではゲーミング産業も参加しながら取り組まれ、効果を上げています。



一般社団法人
RCPG

Resourceful Center of Problem Gambling

発行元：一般社団法人RCPG
所在地：東京都中央区日本橋1-4-1
日本橋一丁目三井ビルディング（コレド日本橋）19階
メール：info@rcpg.or.jp
URL：http://www.rcpg.or.jp
※本内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。